

山梨大学学生フォーミュラ部

2008 年度大会報告書

支援者様

仲秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、弊部はスポンサー企業様・個人支援者様そして本学の御支援・御協力により無事、第六回全日本学生フォーミュラ大会へ出場することができました。

昨年度同様、本年度も弊部が活動が続けてこられたのも、スポンサー企業様・個人支援者様、そして本学の支援者様のおかげであります。多くのご支援・ご協力ありがとうございました。弊部はこれからも全日本学生フォーミュラ大会で上位入賞を目指して車両開発を続けていきます。



ここから大会での弊部の様子を報告いたします。大会は9月10日から13日に静岡県掛川にあるエコパスタジアムで開催されました。大会では書類審査を通過した64チームがエコパスタジアムにそれぞれの車両を持って集結しました。大会初日(10日)は、車検、プレゼンテーション審査、デザイン審査、コスト審査が行われました。弊部は、プレゼンテーション審査、コスト審査、車検、デザイン審査の順で1日目に臨みました。

まず最初に、プレゼンテーション審査では、昨年に引き続き環境に配慮した車両を特徴として弊部独自のビジネスモデルを提案しました。



続いてコスト審査では、加工工程の削減や、強度解析を行い金属材料の削減、自作パーツを多く用いることによるコストダウンをアピールしました。



コスト審査とデザイン審査の間に、技術車検を受けました。初日の技術車検では、ブレーキ系、電装系等での不備が見つかり通過することができませんでした。また、電装系ではエンジンがかからず配線を交換しなければならない事態になってしまいました。



そして、初日最後のデザイン審査に臨みました。デザイン審査では、設計段階で行った強度解析や実験等を基に弊部車両の特徴を説明していききました。また、排気触媒による排気ガスのクリーン化とキャニスターによるブローバイガスの浄化の環境対応についてもアピールしました。

ここで大会初日が終了しました。

大会 2 日目は、本当ならばアクセラレーション、スキッドパッド、オートクロスの動的審査に出場しなければならないが、弊部は技術車検に通過することができず動的種目 3 つに出場することができませんでした。2 日目の午前中は、初日の車検で注意された箇所の修正に追われました。そして、午後から再車検に臨みました。無事車検を通過することができました。車検通過を表すステッカーの 3 枚のうちの 1 枚を貼ることができました。



その後、車両重量の計測に向かいました。車両重量は 280 kg と昨年に比べ 65 kg の軽量化に成功しました。そのまま、車両を 60 度に傾け、オイル類の漏れや 4 輪設置しているかを確認するチルト試験に臨んだのですが、角度が 60 度になった時にリヤのタイヤが浮いてしまい通過することができませんでした。ここで、2 日目が終了しました。



大会 3 日目は、セッティングを変更し再度チルト試験に臨みました。セッティングを変更することによって無事チルト試験を通過することができ、2 枚目のステッカーを貼ることができました。その後、騒音試験に向かいました。騒音試験は 110db 以下でなければならないのですが、115db と 5db オーバーしてしまいました。すぐにチームピットに戻り消音対策を施し、再計測へ向かい無事に通過することができました。

そして、最後に最も不安なブレーキ試験に臨みました。去年はブレーキ試験で苦戦を強いられました。何と今年はブレーキ試験を一発で通過することができました。そして、3 枚目のステッカーを貼ることができ、車検を通過することができました。車検を通過することができたので、プラクティス走行に向かいました。大会での初走行となりとても感動的でした。



大会 4 日目は、耐久性が求められるエンデュランスに出場しました。出走が近づくに連れて緊張感が高まってきました。昨年度はわずか 1 周しか周回することができませんでした。今年こそはという気持ちで挑み、ついにスタートしました。1 周、2 周と周回を重ねていきました。しかし、5 週目に突然エンジンがストップしてしまいました。昨年度のリベンジを果たすことができずとても悔しかったです。



大会結果として、77 校中 41 位という順位でした。昨年に比べ順位は上がっていますが、動的イベントでの得点が無いというのは悔しいです。この悔しさをばねに今後活動していきたいと思います。

総合順位：41 位/77 チーム中 201.16/1000 点



種目	順位	得点/満点
コスト審査	17 位	59.4/100 点
プレゼンテーション審査	24 位	37.5/75 点
デザイン審査	33 位	104/150 点
アクセラレーション	—	0/75 点
スキッドパッド	—	0/50 点
オートクロス	—	0/150 点
エンデュランス	—	0/400 点

最後に

ご支援してくださったスポンサー企業様、個人支援者様、ありがとうございます。弊部は皆様のご支援・ご協力の下、第六回全日本学生フォーミュラ大会に出場することができました。

今大会では、全種目に出場することができず、納得のいく結果を残すことができませんでした。多くのことを学ぶことができました。ものづくりの難しさや楽しさ、そして、ものづくりにおける組織力の重要性、普段の生活では体験することはできません。このような機会を与えてくださった支援者の皆様、ありがとうございます。そして今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。

山梨大学学生フォーミュラ部一同